
表彰トロフィーデザイナー紹介

アート・グラス・クラブ Art Glass Club



(左) 木下良輔氏 (右) 新田五月氏

古代からあるガラスの製法である鑄造ガラスの制作スタジオ。石膏などの型に粉碎したガラスを充填し、電気炉（kiln キルン）で焼成して作る製法はキルン・ワークとも呼ばれ、宙吹きガラスとは趣の異なったガラス作品を生み出す。

メンバーは代表の木下良輔氏を含むガラス作家4名。

神奈川県丹沢山系の山すその町にあるスタジオで、教室の開催や、建築作品の請負制作をしながら、個々の創作活動にも意欲的に取り組み、鑄造ガラスの世界を広げるべく活動を続けている。今回のトロフィー制作の中心となった新田五月氏は、淡路島出身。震災当時は11歳だった。

<メッセージ>

本日の式典、誠におめでとうございます。

被災現場における人命救助の最後は、ひとりの人間の差し出す手に委ねられるかと思えます。

闇の中、尊い命を照らし出したいまつと、破壊の跡、明日に芽吹く新しい生命力をイメージし、トロフィー制作にあたりました。

皆様の研究の成果が結実し、今後一人でも多くの人命を助けられるよう願っております。

アート・グラス・クラブ代表 木下良輔